

# カトリック高松教区（大船渡プロジェクト） 東日本大震災救援・復興活動ニュースレター（2）

発行人 高松教区サポートセンター 2012年1月18日発行  
編集 谷口広海  
寄付 郵便振り込み：カトリック高松司教区  
01650-7-13208  
(お振込の際はTSCへの寄付の意向を必ずご記入ください)  
tel:090-9577-4131 Email:tk-koho@mxi.netwave.or.jp

2012年、新しい年がスタートしました。被災地の復興もこれからがスタートといえます。震災の記憶が人々の心から少しずつこぼれ落ち始めている現実の中で、私達の本気度が試されているといっても過言ではないでしょう。私たちに課せられる働きも多岐にわたって来ています。未だに瓦礫の除去要望も絶えません。小さな働きではあっても、被災者にとっては、いつも共に居て心の安らぎとなる大事な存在となるのです。孤独と戦っている方への傾聴活動・買い物に苦労されているお年寄りや身障者のための買い物送迎、仮設住宅集会所での”お茶っ子”と趣味の手芸、等々、腰を据えて取り組むべき仕事は山積んでいます。

## 大阪教会管区 大船渡ベース開所を祝う 地ノ森いこいの家



1月14日（土）大阪教会管区が岩手県の一部を含む宮城県地域一帯の救援・復興活動拠点（新しい創造）として設置していた「大船渡ベース地ノ森いこいの家」の開所式が盛大に執り行われた。

午前11時から 開所記念ミサが大船渡教会で捧げられ、当地仙台教区の平賀司教様をはじめ、気仙沼教会、水沢教会、盛岡の三つの教会、釜石教会の司祭や信徒、地元大船渡の信徒の方々、釜石ベースのスタッフ、大槌ベースのスタッフ、仙台教区サポートセンターから成井神父、Sr長谷川、カリタスジャパン菊地司教様、遠くいわき市「もみの木」からも駆け付けられ、総勢130人が参加し、京都教区大塚司教（大阪管区の責任者；諏訪高松司教様が急にローマ出張となった）様の司式で行われた。また、ミサ後に来賓出席者の紹介も行われた。大船渡教会は震災後、ミサの参加者が増えたこともあり、元の玄関部分を増築し5畳分程広くしていたが、玄関部分も含め立錫の余地もない程の盛況だった。ミサの中では、日本語のみならず、英語の歌、英語でも聖書朗読がなされた。同時にケセンの地のことば、「ケセン語」でも聖書が朗読され、ケセンの地、地域にしっかりと根ざしたベースの活動になることを具体的な形で表現された。それに続いて「海の星幼稚園」のホールをお借りして交流会がもたれた。

午後2時からの開所式に先立ち、岩手県知事よりカリタスジャパンが行って来た「見なし仮設」に対する暖房器具を相当数支援に対し「感謝状」が贈呈された。

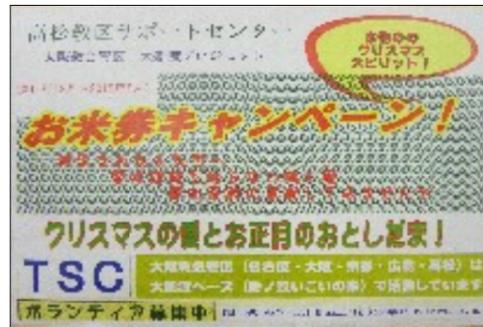
続いて開所式が行われ、開会の辞は当地の平賀司教様が行い、引き続き大船渡ベースを運営する大阪教会管区を代表して大塚司教様が挨拶を行った。次に大船渡市長の祝辞が代読され次に、建物建設に携わった業者さんに感謝状が贈呈された。その後、大塚司教、大船渡市長代理、岩手県知事代理の3方でテープカットも行われた。それから寒風が吹く中、ベースの駐車スペース（前庭）で2回に分けて記念写真の撮影を行った。その後、再び建物の中で、祝賀会を行ったが、近隣の方の踊り、ボランティアによるフルーツ演奏、フィリピン人グループによる歌の披露、シスターの弾き語りとその場を盛り上げた。途中、神戸市で行われていた阪神淡路大震災の記念シンポジウムの会場とをスカイプで結び、この建物を設計して下さった日本建築家協会会員；森下設計士さんに感謝状を贈呈する場面もあった。



この開所式には、仮設に入っている住民、「地ノ森八軒街」の仮設店舗の人々、お隣さん、社協、今迄一緒に活動して来たNPO、NGOなど、教会関係の人々と一緒に150人ほどの人が参加して下さり、本当にうれしい開所式でした。10月から今迄に築いてきた関わり、人との繋がりを大事に津波の被害をここ迄大きくしたのは単に自然の現象だけでなくこの地が背負われて来た長い歴史があることを、生活しながらじわじわと体感して来ていただけに日本の教会が一丸となって東北に繋がろう、繋がらせてもらおうとしていることのなかに希望を見つけました



## 「お米券」キャンペーン中！



高松教区では12月初旬から東日本大震災被災者支援の一環として「お米券キャンペーン」を実施しています。今回の大船渡ベース開所式に当たって、ベース活動の一助として、また速やかな働きが出来るようにと、皆さまにご協力をお願いしましたところ、「お米券」とお米購入支援金、計1,025,000円をお渡しして来る事が出来ました。

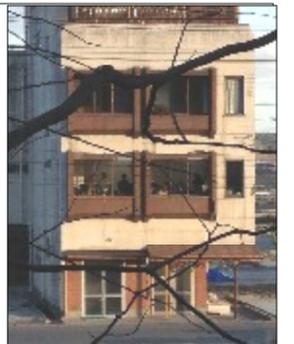
現地では家を流され、全財産を奪われた上、会社等の被災によって仕事も無くなり、近く雇用保険も切れてしまうという話も聞こえて来ています。経済的にも精神的にも本当に無力な方々がまた生まれそうな中で、せめて日々の糧としてのお米だけでも支援出来ないかとのベースの熱意に動かされて「お米券キャンペーン」を始めました。仮設住宅の戸別訪問などの際、お米を携えて行くことによって話題をつかみ、そこから心のつながりを構築する助けとなる事が期待されています。大船渡ベース開所式を機に第1回目をお渡ししましたが、本キャンペーンはこの使命が終わるまで微力でも続けたいと思います。皆様には今後ご理解、ご協力をお願いすることになりますが息長くお付き合いくださいますようお願い致します。

## TSC トピックス 「大槌ベースキャンプ」と 「もみの木」サポートステーション相次ぎ開所

### 12月8日「大槌ベースキャンプ」 (長崎教会管区)

長崎教会管区（長崎・福岡・大分・鹿児島・那覇）が東日本大震災の被災地支援を行う活動拠点と決めた「大槌ベースキャンプ」（岩手県上閉伊郡大槌町）。元は4階建てのビジネスホテルで、津波の被害に遭った1、2階の改修を終えて開所式を行った。

(長崎教区報「よきおとづれ」より転載)



### 12月23日「もみの木」サポートステーション（さいたま教区）

さいたま教区（谷大二郎司教）が福島・いわき市で支援活動を続ける中、いわきサポートステーション「もみの木」の開所式が12月23日、いわき市中央台の同所で行われ、フィンランドから取り寄せたログハウスで、”震災復興のため”と他の注文に先んじて制作され送られてきたもの。（カトリック新聞より転載）



## 高松教区内の動き（活動）

- 3月11日 桜町教会 東日本大震災者支援チャリティーコンサート企画中
- 3月11日 道後教会 東日本大震災者支援チャリティーコンサート企画  
(1月17日現在)

## 大船渡でのボランティアを募集しています

大船渡ベースは14日の開所に至るまで、ボランティアさんのための宿泊施設がなかったため積極的な募集が出来ませんでした。現在、ベース内にはボランティアさん女性8人・男性8人が宿泊できるスペースを確保しています。すでに高松教区から中期ボランティア（2週間程）1名が活動しています。

ボランティア活動として

- ・買い物送迎
- ・子どもの勉強塾と遊び
- ・手芸補助
- ・傾聴活動
- ・喫茶活動

ボランティア内容としては派手なものはありませんが、被災者の方々に寄り添う活動と捉えることが大事です。いつもそばに共にいることが被災者の方々の心の安心と癒しに繋がるからです。

尚、SKSCとのタイアップでのボランティア申し込みも受け付けます。古着実関しては現地では取り扱わないということです。お申し込みは各小教区あるいは上記右端記載の電話、メールアドレスまで。